

现代医学日语

李霞/主编

XIANDAI

YIXUERIYU

吉林人民出版社

PDG

前 言

《现代医学日语》是供国内医学院校的本科生和研究生以及卫生系统赴日人员学习使用的医学日语教材。

结合在长期的教学实践中积累的经验，作者加强了教材中提高现代医学日语读解和口语能力的训练和培养，在国内的日语教材中首次采用了每课配有医学会话的体例。教材尽可能吸收近年来最新出现的现代医学知识和术语，并合理涵盖基础医学、临床医学、预防医学等不同的领域，因此具有更广泛的应用性和更强的使用价值，有利于从事医疗和与医学有关的教学、科研人员能够尽快适应医学日语的语言环境，有助于更有效地提高医学日语的会话水平，弥补了目前国内日语教材在这方面的空白。

本书每课由“本文”“新しい語句”“文型・文法”三个部分组成。“本文”部分，以提高读解和会话两种能力为目的，包括（1）（2）两方面内容，（1）为医学文章，（2）为医学会话，力求做到医学文章与医学会话的内容基本相关或相近，以便达到相辅相成的教学效果。“新しい語句”部分，除了对日语中普遍使用的词义进行解释外，还标明了词语在现代医学日语中的含义。“文型・文法”部分，按照在课文中出现的先后顺序排列，每项“文型・文法”都加注了简单说明，常用的“文型・文法”后面都配有各种形式的练习。

在结构设置和体例安排方面，《现代医学日语》对传统的日语教材编撰方式进行了改革和创新，克服了教材中往往由于面面俱到而重点分散的弱点，有的放矢地加大了对医学日语中“文型・文法”的教学力度，科学编排了灵活多样和不同角度的各种练习，帮助学习者准确、扎实和自如地掌握“文型・文法”的运用方法及其微妙的语感。在教学方法方面，注意避免机械模仿，着重培养学习者了解和掌握不同的使用环境的能力。教材特别注意“文型・文法”在现代医学实践中的具体应用，练习和例句都突出了现代医学的特点。

为了满足不同层面的学习者的需要，教材既考虑到在校学生的学习特点，又顾及到医学日语自学者的要求，对各项“文型・文法”都加注了说明，力求深入浅出。

近年来，中日两国医学界的交流日益频繁，迫切需要实用性强的现代医学

日语教材。希望这套《现代医学日语》能成为学习者的良师益友，也希望它能为促进和加强中日两国医学界的交流做出贡献。

本书的出版得到了财团法人笹川纪念保健协力财团、财团法人日中医学协会的大力支持和资助，在此表示衷心的感谢。

编 者

2000年6月

目 次

第1課

(1) 骨は生きている	1
(2) 骨粗鬆症	4
新しい語句	6
文型・文法	9

第2課

(1) なぜ薬の効き目に個人差があるのか	29
(2) 大衆薬	30
新しい語句	33
文型・文法	35

第3課

(1) 不定愁訴を漢方で治す	56
(2) 神経症の治療	58
新しい語句	61
文型・文法	64

第4課

(1) 減らない結核	82
(2) 結核	85
新しい語句	88
文型・文法	90

第5課

(1) 病理診断は間違いないか	110
(2) がんの病因と治療	111
新しい語句	115
文型・文法	117

第6課

(1) 紫外線と皮膚	138
(2) 光線による皮膚の異常	140
新しい語句	143
文型・文法	145

第7課

(1) 脳研究の現在, 未来	167
(2) 脳の新世紀	168

新しい語句	172
文型・文法	174
第8課	
(1) 緑茶の実力	193
(2) がんと食べ物	195
新しい語句	198
文型・文法	200
第9課	
(1) 自分の歯を守る	220
(2) 歯槽膿漏	222
新しい語句	225
文型・文法	227
第10課	
(1) B型肝炎の治療	248
(2) 肝炎の慢性化	250
新しい語句	253
文型・文法	255
第11課	
(1) 麻酔と手術	276
(2) 神経ブロック	278
新しい語句	281
文型・文法	283
第12課	
(1) ぎっくり腰と椎間板ヘルニア	304
(2) 腰痛	306
新しい語句	309
文型・文法	311
第13課	
(1) 笑いの効用	332
(2) ストレスと胃腸	334
新しい語句	337
文型・文法	339
第14課	
(1) ピロリ菌と胃潰瘍	359
(2) ピロリ菌と胃炎	361

新しい語句	363
文型・文法	364
第15課	
(1) 大腸菌O157感染症は危険だ	383
(2) 下痢	384
新しい語句	388
文型・文法	390
第16課	
(1) 軽症高血圧	411
(2) 血圧と成人病	413
新しい語句	417
文型・文法	419
第17課	
(1) 白血病と骨髄バンク	439
(2) 血液のがん	441
新しい語句	445
文型・文法	447
第18課	
(1) 痴呆症	467
(2) 高齢化社会	470
新しい語句	472
文型・文法	474
第19課	
(1) 子宮がん	493
(2) 子宮がんの検診	495
新しい語句	498
文型・文法	500
第20課	
(1) 脳死問題の背景	519
(2) 臓器提供	521
新しい語句	524
文型・文法	526
参考訳文	544
文型・文法索引	588
練習問題解答	592

第1課

(1)

骨は生きている

骨というと、私たちはすぐ、白くて固い、ただの棒のようなものを思い浮かべてしまうのですが、骨はそういうものではありません。弾力もあるし、肺や胃や腸、筋肉などと同じように、中にはたくさんの暖かい血液も流れているのです。

ちょっと大げさな言い方をすれば、骨は血管の束といってもいいくらいで、その中には無数の血管が通っています。そして、そこを流れる血液から、骨の細胞は、必要な栄養やホルモンを受け取って、せっせと働きつづけています。その細胞の動きは、実に、驚くばかりの見事さです。

骨も生きています。

●人間には、なぜ骨が大切なのでしょうか

一つは、からだの心臓棒です。海の中とか、宇宙とか、無重力の世界の中に生きている動物なら、骨なしでは不便はないかもしれません。しかし地球上に暮らしている人間が、地球の重力に抵抗して立って歩いたり、物を持ちあげたりするのには、どうしても、つかい棒としての骨が必要なのです。

体の大切な臓器を守る役目もあります。頭蓋骨は脳を守り、肋骨は肺や心臓や胃を守り、骨盤は子宮や膀胱を守っています。

骨は一方でカルシウムの貯蔵庫の役目も果たしています。人間のからだは、血液中のカルシウムの量が、いつも一定に保たれていなければ、脳や心臓など、生命に必要な機能をちゃんと働かせることができないのです。だから、もし血液中のカルシウムが不足してくると、人間のからだは、自分の骨のカルシウムを血液中にとかし出して補ってやるのです。

たとえば、大人の男の人のからだの中には、約900グラムのカルシウムがありますが、その97パーセント近くが骨にあります。

もう一つ、骨は血液を作り出す場所でもあるのです。腕や脚などのパイプ状の長い骨の中心部や、海綿骨の小さいすき間は、骨髓という柔らかい組織で満たされていて、血液はそこで作られています。

骨は中空のほうが丈夫で、折れにくいし、いろいろな力にも耐えられます。その中空のところを利用して血液を作っているわけで、非常にうまい具合になっているのです。

血液は生まれてすぐは、からだじゅうの骨の骨髓で作られています。成長するにつれて、作る場所が限られてきます。小さいうちは、手足の骨とか、太い骨全部作っていますが、大人になると、主に、胸骨とか脊椎、それから骨盤を形づくっている腸骨など、からだの中心に近い骨でつくられます。

骨髓でつくられた赤血球や白血球は、すぐ近くにきている血管に入り、全身をまわる

わけです。

●40 歳から骨にも老化が始まっている

骨はたえず、どこかができたりこわれたりしているわけですが、いつまでも健康でいるためには骨のこわれる量と、できる量のバランスが取れていることが大切です。

早くこわれても、早くできていけば問題はないわけで、子供の骨は大人のよりも頻繁にこわれますが、できる方もどんどんできるので、骨はちゃんと大きくなっていきます。

こわれる早さはふつうでも、作るのが間に合わなくなると、骨は、だんだんに減ってしまい、それが問題なのです。

健康な男性 135 人、女性 202 人について、骨の量を測った結果によると、男性は 30 代をピークとして、以後徐々に減っていきませんが、70 歳ぐらいまでは割合なだらかです。女性は、更年期のころ、50 歳近くになると、急に減り方が早くなります。これは、新しい骨を作るときに必要な女性ホルモンが、閉経後は少なくなるためだろうと考えられています。

男性の減り方が、女性に比べてなだらかなのはなぜかは、まだよく分かっていませんが、一説には、女性ホルモンの量のちがいはないかと考えられています。もともと、男性も女性ホルモンを持っているのですが、60 歳、70 歳では、男性のほうが、閉経後の女性よりむしろ多いともいわれています。

このように、年をとると骨の量が減ってくるのは、女性ホルモンの影響もその一つですが、どうしても防ぐことができない老化現象なのです。年をとればシワができるのと同じようなものだといっていいでしょう。

関節も、若い頃は、たいへん滑りがよくて、氷の上に氷をすべらせる、その三倍以上もなめらかに動くものなのですが、年をとってくると、軟骨がすり減ってデコボコして、スムーズに動かなくなる人が少なくありません。

●80 歳も 20 歳もカルシウムは同じだけ必要

骨の材料の主なもの、カルシウムと、もう一つは蛋白質です。蛋白質は、からだのどの部分にも必要のように、骨にも欠かせない大事なものです。

骨は、ちょうど、鉄筋コンクリートに似ています。蛋白質でできた丈夫なセインが芯にあって、それが鉄筋の役目をして、そこにカルシウムや磷がコンクリートのようにくっついて、間をうめています。骨がしっかりしているのは、この蛋白質の芯があるためです。焼かれた骨は、この蛋白質が抜けて軽石のように穴があき、カルシウムだけが残るから、とてももろいのです。

私たちの今の食事では、蛋白質はまず足りていますが、カルシウムはまだ、不足ぎみです。骨のためには、やはり、もっとカルシウムを取るように心がける必要があります。なかでも妊娠している人、授乳期にある人、それから 40 歳を過ぎた人は、特にそのことに注意しなければいけません。

厚生省の栄養所要量によると、妊娠中には、カルシウムは自分の分としての 600 ミリグラムのほかに、400 ミリグラム必要となっています。両方で 1 日 1 グラムはとったほ

うがいいということです。

胎児がお母さんからもらう栄養は、ふつう、濃度の高い母体から、濃度の低い胎児に移っていきます。ところが、カルシウムは逆に、赤ちゃんのほうが高濃度です。それは必要なだけ、母体から積極的に奪い取っていくからなのです。

カルシウムはお母さんの血液中では、蛋白質とくっついていきますから、そのままでは胎児のほうへ移れません。それを切り離して、カルシウムだけをがむしやらに取っていきます。お母さんが貧血だろうと、おかまいなしです。それほど、カルシウムは赤ちゃんにとって必要なものなのでしょう。

だから、生まれてくる赤ちゃんに、カルシウム不足による障害は、ほとんどありません。それだけに、妊娠中のお母さんはカルシウムをしっかりとりないと、お母さん自身の骨がどんどん減ってしまいます。

赤ちゃんが生まれてお乳をやるようになると、妊娠中よりも、さらにたくさんのカルシウムが必要です。母乳は、離乳前の赤ちゃんにとっては唯一の栄養源ですから、赤ちゃんが歯や骨をどんどん作っていくために、カルシウムが十分含まれている母乳をあててやらなければならないからです。

そろそろ骨が減り始める四、五十歳からが、いちばんカルシウムに注意しなければならないときです。

カルシウムが80歳の老人も20歳の若者も、同じ600ミリグラム必要なのです。カロリーは年齢と共に減らしていいのですが、というよりむしろ、中年太りにならないためには減らさないといけませんが、カルシウムは減らしてはいけません。何歳になっても、若い頃と同じだけいるのです。

60歳70歳になると、ついお茶漬けサラサラになりがちですが、そんな食事では、骨には材料不足です。

ビタミンCは、蛋白質が骨の芯になるセンイを作る時に働いて、強いセンイにします。カルシウムや蛋白質をいくらとっても、ビタミンCがなければ、丈夫な骨になりません。その意味でも野菜や果物は充分食べたほうがいいのです。

もう一つ、欠かせないのがビタミンDです。

カルシウムは、他のものと同じように、腸で吸収されますが、そのとき、ビタミンDがないと吸収できません。もし、ビタミンDが不足すると、カルシウムの吸収が悪くなって骨が軟らかくなり、大人なら骨軟化症、子供ではクル病になることがあります。

ビタミンDは、日本のように日照時間が長いところでは、必要な量の80パーセントまで、ヒフで作られます。日照時間が短い北米では、ビタミンDが欠乏しないよう、牛乳には必ず添加するように法律で決まっているくらいです。

結局、骨を丈夫にするには、カルシウムと蛋白質とビタミンCを食事で気をつけてとり、外に出て陽に当たること、そして、それぞれの年齢にふさわしい運動をすることです。

骨も生きていることを忘れずに、上手につき合っていきたいものです。

(2)

骨粗鬆症

- A 骨粗鬆症の患者は全国で何人いるのでしょうか。
- B 骨代謝学会が 96 年に改定した骨粗鬆症の診断基準に基づく全国調査では、自覚症状のない人も含めて約 1000 万人の患者がいると推計されます。最も重要な合併症である大腿骨頸部骨折の年間新規患者は、92 年の推計では 7 万 7 千人で、その 5 年前に比べ 1.5 倍になりました。
- A 騒がれ過ぎとの批判も出ていますが。
- B 数年前まで、骨粗鬆症は単に骨の老化現象と見られていましたが、世界一の長寿国となり、大腿骨頸部骨折者が欧米並みに近付いた今、骨粗鬆症の重要性を認識する必要があります。
- A 患者の診断は？
- B 骨代謝学会の診断基準では、脊椎のエックス線画像と、骨密度の二つを指標として診断します。国際的には二重エックス線エネルギー骨密度測定器 (DXA) で腰椎の骨密度を測定して判定するのがよいとされています。
- 高齢者では、脊椎の変形や大動脈石灰沈着などの合併症があり、DXA の測定値が高く出るため、評価が難しくなりがちです。この場合、年齢による変化が起きにくい手首付近の骨を見るのがよいでしょう。
- 現在、全国には約 7 千台の骨量測定器があります。問題なのは、自治体などの骨量検診で精密検査を勧められても、受け皿となる医師が少ないことです。
- A 骨密度が低いからと、すぐ薬を出す医師もいますね。
- B 骨密度が低下する病気は、骨軟化症、副甲状腺機能亢進症など骨粗鬆症以外にも多く、鑑別診断が必要です。すぐ薬というのは短絡的過ぎます。治療には食事や運動療法もあります。
- その一方で、骨粗鬆症予備軍の中でも、高齢者、骨折経験者、ステロイド剤使用者は、早めに治療したほうがよいと考えられます。きめ細かい治療方針が求められます。
- A 薬物治療はどのような薬が中心になりますか。
- B 骨粗鬆症と診断された人の治療薬は、50%が活動型ビタミンD₃、18%がカルシトニンで、ホルモン補充療法が 12%くらいです。最近ではビタミンK₂なども使われています。ホルモン補充療法が主流を占める欧米と異なるのは、日本では当初、閉経後骨粗鬆症についてほとんど注目されておらず、主に老人性骨粗鬆症が治療されていたことが影響しています。
- A 寝たきりの原因となる大腿骨頸部骨折は、整形外科の技術が進歩したので心配いらない、という意見もありますが。
- B 確かに技術の進歩で大腿骨頸部骨折で寝たきりになる率は少なくなりました。しか

し、高齢者の中には手術を受けられない人もいます。また、脊椎の圧迫骨折は元に戻しようがなく、50歳代から始まります。大腿骨頸部骨折の治療にかかる医療費は、年間1500億～2000億円とも言われます。治療より予防のほうが、はるかに安上がりと思いませんか。

A 生活上の注意は何でしょうか。

B 高齢者では転倒を予防し、若い人では最大骨量を多くすることです。大切なのは、骨折を起こさないで天寿をまっとうできるようにすることです。今、大腿骨頸部を骨折している人の平均年齢が80歳としたら、これを10年後に延ばせばよいのです。食事では、カルシウムの重要性ばかりが強調される傾向にあります。日本人は欧米人に比べ、カルシウムの摂取量が少ないのに、大腿骨頸部骨折が少ないという点には注目しなくてはなりません。わたしどもの研究では、納豆に含まれているビタミンK₂が骨折の予防に効果的でした。骨粗鬆症になりやすい人には、特に早めの予防・治療が有効です。いずれは遺伝子診断も活用されると思います。

【新しい語句】

(1)

ほね【骨】(名) - 骨
 ただ【只】(名) - 普通, 平日
 ぼう【棒】(名) - 棒, 棍
 おもいうかべる【思い浮かべる】(他下一)
 - 回想起, 浮现在脑海里
 だんりょく【弾力】(名) - 弾力
 はい【肺】(名) - 肺
 い【胃】(名) - 胃
 ちょう【腸】(名) - 腸
 きんにく【筋肉】(名) - 肌肉
 けつえき【血液】(名) - 血液
 おおげさ【大袈裟】(名・ナ形) - 夸大, 夸张
 けっかん【血管】(名) - 血管
 たば【束】(名) - 束, 把, 捆
 むすう【無数】(名・ナ形) - 无数
 さいぼう【細胞】(名) - 细胞
 えいよう【栄養】(名) - 营养
 ホルモン【ド Hormon】(名) - 荷尔蒙, 激素
 せつせと【副】 - 一个劲儿地, 拼命地
 じつに【実に】(副) - 的确, 实在, 非常
 おどろく【驚く】(自五) - 吃惊, 惊奇, 惊叹
 みごと【見事】(ナ形) - 漂亮, 出色, 巧妙
 しんぱりぼう【心張棒】(名) - 顶门杆
 うちゅう【宇宙】(名) - 宇宙
 むじゅうりょく【無重力】(名) - 无重力
 ていこう【抵抗】(名・他サ) - 抵抗
 もちあげる【持ち上げる】(他下一) - 拿起
 つっかいぼう【つっかい棒】(名) - 支柱, 棍
 ぞうき【臓器】(名) - 内脏器官
 まもる【守る】(他五) - 守卫, 保卫
 やくめ【役目】(名) - 职责, 任务
 ずがいこつ【頭蓋骨】(名) - 颅骨
 のう【脳】(名) - 脑
 ろっこつ【肋骨】(名) - 肋骨
 しんぞう【心臓】(名) - 心脏
 こつばん【骨盤】(名) - 骨盆
 しきゅう【子宮】(名) - 子宫
 ぼうこう【膀胱】(名) - 膀胱

カルシウム【Calcium】(名) - 钙
 ちょぞうこ【貯蔵庫】(名) - 储藏库
 はたす【果たす】(他五) - 完成, 实行, 实现
 いっつい【一定】(名・自他サ) - 一定, 固定
 たもつ【保つ】(自他五) - 保持, 维持
 ふそく【不足】(名・自サ・ナ形) - 不足, 缺少
 とかす【溶かす】(他五) - 溶解, 融化
 おぎなう【補う】(他五) - 补充, 补偿
 うで【腕】(名) - 手腕
 パイプ【pipe】(名) - 管, 管道
 かいめんこつ【海绵骨】(名) - 海绵骨
 すきま【透き間】(名) - 缝儿, 间隙
 こつずい【骨髓】(名) - 骨髓
 そしき【組織】(名) - 组织
 みたす【満たす】(他五) - 填充, 充满
 ちゅうくう【中空】(名) - 中空
 たえる【耐える】(自下一) - 经得住, 受得住
 きょうこつ【胸骨】(名) - 胸骨
 せきつい【脊椎】(名) - 脊椎
 ちょうこつ【腸骨】(名) - 肋骨
 せつけっきゅう【赤血球】(名) - 红细胞
 はつけっきゅう【白血球】(名) - 白细胞
 たえず【絶えず】(副) - 不住地, 不断地
 ひんばん【頻繁】(名・ナ形) - 频繁
 まにあう【間に合う】(自五) - 来得及; 够用
 へる【減る】(自五) - 减, 减少
 こうねんき【更年期】(名) - 更年期
 へいけい【閉経】(名) - 闭经
 なだらか【ナ形】 - 平缓
 いっせつ【一説】(名) - 一种说法
 もともと【元元】(副) - 原来, 本来, 原本
 むしろ【寧ろ】(副) - 宁可, 莫如, 索性
 しわ【皺】(名) - 皱纹
 かんせつ【関節】(名) - 关节
 すべり【滑り】(名) - 滑, 滑动
 なめらか【滑らか】(ナ形) - 光滑
 なんこつ【軟骨】(名) - 软骨
 すりへる【磨り減る】(自五) - 磨损
 でこぼこ【凸凹】(名・ナ形・自サ) - 凹凸不平
 スムーズ【smooth】(ナ形) - 圆滑, 顺利

たんぱくしつ〔蛋白質〕(名) - 蛋白质
 かかす〔欠かす〕(他五) - 遗漏, 缺少
 てっきん〔鉄筋〕(名) - 钢筋
 コンクリート〔concrete〕(名) - 混凝土
 せんい〔纖維〕(名) - 纤维
 しん〔芯〕(名) - 芯
 りん〔磷〕(名) - 磷
 くつつく(自五) - 附着, 粘住
 うめる〔埋める〕(他下一) - 埋, 填补
 しっかり〔副・自サ〕 - 坚固
 やく〔焼く〕(他五) - 烧, 焚
 かるいし〔軽石〕(名) - 浮石
 あな〔穴〕(名) - 穴, 孔
 もろい〔脆い〕(形) - 脆的, 易碎的
 きみ〔気味〕(接尾) - 有点儿, 稍稍
 こころがける〔心掛ける〕(他下一) - 留心, 注意
 にんしん〔妊娠〕(名・自サ) - 妊娠
 じゅにゅう〔授乳〕(名・自サ) - 哺乳
 たいじ〔胎児〕(名) - 胎儿
 うばいとる〔奪い取る〕(他五) - 夺取, 掠夺
 きりはなす〔切り離す〕(他五) - 割开, 断开
 がむしゃら(名・ナ形) - 莽撞, 蛮干
 ひんけつ〔貧血〕(名・自サ) - 贫血
 それだけに〔接〕 - 正因为如此
 さらに〔更に〕(副) - 更, 更加
 ゆいいつ〔唯一〕(名) - 唯一, 独一
 カロリー〔Calorie〕(名) - 卡路里
 ちゃづけ〔茶漬け〕(名) - 茶水泡饭
 つい(副) - 不知不觉
 さらさら(副) - 松散, 沙沙棱棱, 散散落落
 ～がち(造語・ナ形) - 好, 爱, 容易
 ビタミン〔Vitamin〕(名) - 维生素
 きゅうしゅう〔吸収〕(名・他サ) - 吸收
 こつなんかしょう〔骨軟化症〕(名) - 软骨病
 くるびょう〔佝僂病〕(名) - 佝僂病
 にっしょう〔日照〕(名) - 日照
 ほくべい〔北米〕(名) - 北美
 けつぼう〔欠乏〕(名・自サ) - 缺乏
 けつきよく〔結局〕(名・副)
 - 結局, 结果; 归根结底, 究竟
 ふさわしい〔相応しい〕(形) - 适合, 相称
 つきあう〔付き合う〕(自五) - 来往, 交际

(2)

こつそしょうしょう〔骨粗鬆症〕(名) - 骨质疏松症
 かんじゃ〔患者〕(名) - 患者, 病人
 たいしゃ〔代謝〕(名) - 代谢
 がっかい〔学会〕(名) - 学会
 かいてい〔改定〕(名・他サ) - 重新修订
 しんだん〔診断〕(名・他サ) - 诊断
 きじゅん〔基準〕(名) - 基准, 标准
 もとづく〔基づく〕(自五) - 根据, 基于, 依照
 じかくしょうじょう〔自覚症状〕(名) - 自觉症状
 すいけい〔推計〕(名・他サ) - 推算
 もつとも〔最も〕(副) - 最, 顶
 がっぺいしょう〔合併症〕(名) - 合并症
 だいたいこつけいぶ〔大腿骨頸部〕(名)
 - 股骨頸部
 こつせつ〔骨折〕(名・自他サ) - 骨折
 しんき〔新規〕(名・ナ形) - 新
 さわぐ〔騒ぐ〕(自五) - 哄嚷; 吹捧
 ひはん〔批判〕(名・他サ) - 批评, 评论
 たんに〔単に〕(副) - 仅, 只, 单
 ちょうじゅ〔長寿〕(名) - 长寿
 おうべい〔欧米〕(名) - 欧美
 なみ〔並み〕(造・) - 同样, 同等程度
 ちかづく〔近付く〕(自五) - 靠近, 临近
 にんしき〔認識〕(名・他サ) - 认识
 エックス線〔X線〕(名) - X射线
 がぞう〔画像〕(名) - 影像, 图像
 みつど〔密度〕(名) - 密度
 しひょう〔指標〕(名) - 指标
 にじゅう〔二重〕(名) - 两重, 双重, 双层
 エネルギー〔Energie〕(名)
 - 能量; 精力; 能源
 そくていき〔測定器〕(名) - 测量仪器
 ようつい〔腰椎〕(名) - 腰椎
 はんてい〔判定〕(名・他サ) - 判定, 判断
 へんけい〔変形〕(名・自他サ) - 变形
 だいどうみやくせつかいちんちやく
 〔大動脈石灰沈着〕(名) - 主动脉钙化
 ひょうか〔評価〕(名・他サ) - 评价
 てくび〔手首〕(名) - 手腕子
 ふきん〔付近〕(名) - 附近, 一带

じちたい [自治体] (名) - 自治体

けんしん [検診] (名・他サ) - 健康検査

せいみつ [精密] (名) - 精密, 细致

すすめる [勧める] (他下一) - 劝告, 建议

うけがら [受け皿] (名)

- 继承人, 使事物持续下去的人或物

ていか [低下] (名・自サ) - 降低, 下降

ふくこうじょうせんきのうこうしんしょう

[副甲状腺機能亢進症] (名) - 甲状旁腺機能亢進

かんべつ [鑑別] (名・他サ) - 鉴别, 识别

たんらく [短絡] (名・自他サ) - 简单判断, 武断

ちりょう [治療] (名・他サ) - 治疗, 医疗

いっぽう [一方] (名) - 一方面

よびぐん [予備軍] (名) - 预备军

ステロイド [steroid] (名) - 类固醇

はやめ [早目] (名) - 提前, 早些

きめこまかい [木目細かい] (形) - 细致, 仔细

ほうしん [方針] (名) - 方针

もとめる [求める] (他下一) - 寻求, 要求

やくぶつ [薬物] (名) - 药, 药物

カルシトニン [Calci-tonin] (名) - 降钙素

ほじゅう [補充] (名・他) - 补充

しゅりゅう [主流] (名) - 主流

しめる [占める] (他下一) - 占

ことなる [異なる] (自五) - 不同

とうしょ [当初] (名) - 当初, 最初

ほとんど [殆ど] (名・副) - 大部分, 几乎

おもに [主に] (副) - 主要地, 大部分, 大多数

ちゅうもく [注目] (名・自他サ) - 注目

ねたきり [寝たきり] (名) - 卧床不起, 瘫痪

せいけいげか [整形外科] (名) - 骨科, 整形外科

りつ [率] (名) - 率, 比率

しゅじゅつ [手術] (名) - 手术

あっぱくこっせつ [圧迫骨折] (名) - 压缩性骨折

もと [元] (名) - 原来

もどす [戻す] (他五) - 使还原, 使复原

よぼう [予防] (名・他サ) - 预防

はるか [遙か] (副・ナ形) - 遥远

やすあがり [安上がり] (名・ナ形) - 省钱, 便宜

てんとう [転倒] (名・自他サ) - 跌倒, 摔倒

おこす [起こす] (他五) - 发生, 引起

てんじゅ [天寿] (名) - 天寿, 天年

まっとうする [全うする] (他サ) - 保全, 完成

のばす [延ばす] (他五) - 延长, 拖延

けいこう [傾向] (名) - 倾向, 趋势

せつしゅ [摂取] (名・他サ) - 摄取, 吸收

ども (接尾) - (接在第一人称后) 表示谦逊

なっとう [納豆] (名) - 纳豆

こうかてき [效果的] (ナ形) - 有效的

いずれ [何れ] (代) - 不久, 总有一天

いでんし [遺伝子] (名) - 遗传因子, 基因

かつよう [活用] (名・自他サ) - 有效利用

【文型・文法】

1 ～という

骨というと、私たちはすぐ、白くて固い、ただの棒のようなものを思い浮かべてしまうのですが、骨はそういうものではありません。

注：ある話題を受けて、そこからすぐ連想されることについて述べるのに用いる。

- ① 日焼けというと、夏におこるものと思っていましたが。
- ② 1時間というと短いようですが、人を待っている時の1時間は、本当に長く感じられるものです。
- ③ マンションというと7・8階もある立派な建物を想像するかもしれませんが、私の所は3階建ての、アパートに毛が生えた程度のものですよ。
- ④ 精神障害者というと、なんとなく怖いという感じをもつ人がいるかもしれません。
- ⑤ 健康茶というと飲みづらい味を想像してしまいがちなんですけど、全然そんなことはありません。
- ⑥ 大腸菌というと、一般の人は、ふつうおなかの中に1種類しかないとお考えになるかもしれませんが、実は何十種類もあるのです。
- ⑦ この町に新しく病院ができた。病院というとただ四角いだけの建物を想像するが、この病院はカントリーホテルという感じのものだ。
- ⑧ 昔から「胆石」というと大変な痛みをとまなう、つらい病気といわれ、現にそう思っている人も多いのですが、エコー検査が普及してからは、むしろ痛みをとまなわない「無症状胆石」が多いことが分かってきました。
- ⑨ 冷え性というと中高年の女性の問題と思われがち。しかし、最近ではダイエットやミニスカートの着用による冷えが若い女性にも増え、さらに、通勤電車や職場の過剰冷房によって男性も冷え性になっているという。

練習問題

I 例にならって質問に答えなさい。

(例) 夏というと何を連想しますか。

→そうですね。まず海水浴ですね。

エジプトというと何を連想しますか。

→そうですね。まずピラミッドですね。

- ① 盛唐の詩人というと誰を連想しますか。

→

- ② 春というと何を連想しますか。

→

- ③ 冬というと何を連想しますか。

→

④ インド料理というと何を連想しますか。

→

⑤ 四川料理というと何を連想しますか。

→

⑥ 冬のスポーツというと何を連想しますか。

→

II 例にならって文を完成しなさい。

(例) ビザ延長の手続き というと、まず複雑で面倒だというイメージを持ちます。
結核 というと、“過去の病氣”と考えている人が多いのではないかと思います。

- ① _____ というと、山水の美しい風景が思い浮かびます。
- ② _____ というと、すき焼きが頭に浮かびます。
- ③ _____ というと、まずゴキブリを連想します。
- ④ _____ というと、広い草原や牛の群れを思い出します。
- ⑤ _____ というと、まず厳しいものを想像します。
- ⑥ _____ というと、“死ぬ病氣”と考えている人が多いのではないかと思います。

2 ~ようだ

骨というと、私たちはすぐ、白くて固い、ただの棒のようなものを思い浮かべてしまうのです

注：比喩を表す。

- ① まだ4月なのに、夏のような暑さだ。
- ② 望遠鏡で見ると遠くの島がまるで目の前にあるようだ。
- ③ よほど疲れているらしく、死んだように眠っている。
- ④ みんなはしゃいで、盆と正月が一緒に来たようだ。
- ⑤ 気密性が良く暖房の効いた部屋では、湿度が砂漠のように低くなります。
- ⑥ 50年ぶりに小学校の友達と会えるなんて夢のようです。
- ⑦ 病気を悪くする因子は、例えば火に注がれる油のようなものです。
- ⑧ 実際に動脈硬化を起こした血管は木の枝のように硬くなっていることがあります。
- ⑨ 左目が半年前から、眼球を動かすと蚊が数匹飛んでいるような状態になっています。
- ⑩ 2年ほど前から、呼吸する度に耳の中を風が吹くようなゴーゴーという音が響くようになりました。
- ⑪ 尋常性乾癬は頭を含めた全身に、蟬母のような銀白色のカサブタ（鱗屑）がついた赤い斑点がたくさんできる皮膚疾患です。
- ⑫ 肺には肺胞といって直径が0.25～0.3ミリの非常に小さな風船のような袋がおよそ3億も存在しています。
- ⑬ 前立腺に良性腫瘍として発生し、ミカンの実のように発育して尿道を圧迫し、排尿障害を来しているのが前立腺肥大症です。

練習問題

I 例にならって言いかえなさい。

(例) 広いです。／ 公園, 庭 → 広くて公園のような庭です。

→ 庭が広くて公園のようです。

硬いです。／ ゴム, 牛肉 → 硬くてゴムのような牛肉です。

→ 牛肉が硬くてゴムのようです。

- ① 冷たいです。／ 氷, 心 →
→
- ② 柔らかいです。／ 布, 皮 →
→
- ③ 硬いです。／ 石, パン →
→
- ④ 広いです。／ 海, 湖 →
→
- ⑤ 真っ暗です。／ 夜, 森 →
→
- ⑥ 赤いです。／ りんご, ほお →
→

II 例にならって文を完成しなさい。

(例) 彼女の手は 氷 のように冷たいです。

今日は 冬 のように寒いです。

- ① 社長は _____ のようにテレビゲームに熱中しています。
- ② 弟はいつも _____ のようにゆっくり食べます。
- ③ その動物は _____ のように飛べます。
- ④ 田中さんは _____ のようによく知っています。
- ⑤ 腰椎はちょうど _____ のように衝撃を吸収する働きを持っています。
- ⑥ 急に両足のすねから下が _____ のように硬直して動かなくなりました。

3 実に

その細胞の動きは、**実に**、驚くばかりの見事さです。

注：感心したり驚いたりする気持ちを表す場合に用いられる。

- ① これは実に面白い本です。
- ② 実に10年ぶりに祖国の土を踏んだのです。
- ③ 今日は実に楽しかった。
- ④ 幸ちゃんの絵はね、実になんとも言えない魅力があつてね。